

核融合産業協議会

古河電工、フジクラ、大和合金が参画

材料技術で発電実用化寄与へ

今年度内をめどに発足する核融合産業協議会に、古河電工・フジクラ・大和合金が発起人として参画する。同協議会は核融合関連産業・ビジネスの創出などを目的とした団体。11日までの募集で発起人会への参加について登録があった企業19社

を内閣府が公表した。参画企業の業態は幅広い構成。非鉄金属関連メーカー3社は高度な材料技術を生かし、核融合発電実用化へのさらなる寄与を目指していくことになる。

の現行原子力発電より環境負荷が小さいほか原料が調達しやすく、実証に向けたプロジェクトが世界的に進められている。

同協議会では参加企業間でネットワークを形成。核融合産業の動向調査や会員企業との情報共有、技術の標準化活動や政策提言などを実施予定。産学連携での取り組みや人材育成にも取り組む方針だ。核融合に関する国内外の動向・情報を把握できることなどが利点。

古河電工とフジクラは核融合発電に関連する技術として、電気抵抗ゼロで電流を流すことができる超電導線材などの知見が豊富。超電導線材はエネルギーを生み出すプラズマを閉じ込めるためのコイルの材料などとして用いられることが期待されている。

また大和合金は高温下でも強度に優れる銅・クロム・シルコニウム合金の管や板でノウハウを持っている。各社とも核融合発電に関する材料を、注力テーマの一つとして位置付けている。